

# 音読練習に対する動機づけの一試み

山本有希\*

## An Attempt to Motivate Students to Practice Reading Aloud

YAMAMOTO Yuki\*

This paper reports on a class practice in which students engaged in oral reading practice and presentation in the style of after-recording, using Russian video materials. Three objectives were set for this activity. First, to lead learners to practice reading aloud autonomously and to increase their motivation to do so; second, to make them aware of dialogue tempo and intonation through reading practice; and third, to cultivate an attitude of cooperation among learners in tackling tasks. A questionnaire was administered to observe changes in learners' attitudes. The results of the questionnaire analysis indicate that the set objectives were generally achieved.

キーワード: ロシア語学習, 音読練習, グループ活動, アフレコ

### 1. はじめに

本稿は、ロシア語の動画教材を利用して、アフターレコーディング(以下、アフレコ)というスタイルを取り入れて音読練習・発表に取り組んだ授業実践の報告である。

音読練習は発音、強勢、抑揚などを習得することで、創造的な言語活動をするための基礎をつくるものであり、語学学習においては必要不可欠な活動である。しかし、平素の授業の中では音読活動に割ける時間はわずかであり、触れられるテキストは限られたものとなる。したがって学生の自律的な音読練習を求めるのだが、試験前の詰め込み型の練習となる傾向が強く、残念ながら試験後には練習の成果がすぐに失われてしまう。

このような状況を少しでも改善し、学生を楽しく音読活動に誘うことができないだろうか、という現実的な問いが本活動の出発点である。

### 2. アフレコ活動導入の背景と目的

富山高等専門学校国際ビジネス学科では、第2外

国語として「環日本海諸国語(ロシア語、中国語、韓国語)」を設定し、1年次に選択した言語を5年間学習している。

今回、音読活動に取り組んだのは2年生のロシア語選択者11名(以後、学生)であり、彼らのロシア語学習歴は1年半強である。過去の学生と同様、2年間でCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)A2レベルの学習内容の大半を終了する予定である。

学生には学習意欲があり、文法事項の理解度も悪くはないが、文法事項の学習に追われて十分な音読や会話練習ができないのが実状である。そこで学生が1年生の時には、「Время говорить по-русски<sup>(1)</sup>」というインターネット上の動画教材を利用して、テキストの暗唱をベースとしたスキット活動<sup>(2)</sup>に取り組んだ。この活動後に実施したアンケートの中に、アフレコに興味を持ったという回答があり、これに応える形で今回のアフレコ活動を実施することにした。

本活動では、3つの目的を設定した。第1に学生を自律的な音読練習に導き、音読練習に対する動機づけを高めること、第2に音読練習を通じて、対話テンポやイントネーションに対する意識を持たせること、第3に学生間で協力して課題に取り組む態度を養うことである。これらの目標を達成するためにどのように取り組

\*一般教養科ロシア語

んだのかを以下に述べたい。

### 3. 教材について

自律的な音読練習を可能にするための教材として再度「*Время говорить по-русски*」を選定した。理由は、学生が自分の都合に合わせてこの教材を利用できること、そして学生が昨年のスキット活動で第1課の暗唱に取り組み、この教材に親しみを持っていることである。今回の活動では学習進度を考慮して第9課のテキストを課題とした。

「*Время говорить по-русски*」は、カナダからモスクワ(当時はソ連)に来た青年が、空港でスーツケースを取り違えてしまい、そのスーツケースを探し当てるまでの物語として構成されている。カナダ人男性ジョンが、やはりモスクワを訪れていたウクライナ人男性リョーヴァと知り合い、スーツケースを取り違えた相手であるロシア人女性マリヤを探すというストーリーで、全10課で構成されている。第9課ではマリヤと連絡が取れて彼女のもとを訪ねることになり、お土産を買うために商店に行くシーンが描かれている。

第9課では、学生が本活動の直前に学習した事項である動詞の体の用法、運動の動詞の用法の文法事項がふんだんに用いられているだけでなく、客として招かれた際のエチケットといった文化的習慣についても描かれているため、教材として適切であると考えた。第9課は3場面で構成され、それぞれ対話のテキストがあるので、学生は3本のテキストを音読する。

### 4. 活動の準備

アフレコ活動を始めるにあたり、学生に本活動の目的を説明する際、第1の目的についてはあえて言及しなかった。それは、自律的な音読練習をこちらから言葉に出して求めることはせずに、学生自身にどのようにすればよいかを考えさせたかったからである。一方、対話のテンポやイントネーションは、音読練習の成果として身につけさせたい技能であるので、毎回強調した。

また、テキストが対話なので、ペアあるいはトリオの

活動とし、協調性を養うために活動のたびにメンバーを変えることにした。平素の授業でも毎時間のように席替えをしているので、学生は違和感を覚えることもなく、その日のメンバーと協力して活動に取り組んでいた。

そして、動機向上を意図して練習成果の発表の場を設けたが、成績評価をしたり順位をつけたりすることはしなかった。本活動の目的はあくまでも、音読練習への動機づけであり、最終的な出来不出来は別の問題だからである。

学生には音読するテキストとその対訳を配布し、動画の URL を提示して、一人でも練習できる環境を整えた。

## 5. 活動の流れ

### 5.1 活動計画

学生が受講するロシア語の授業は週に2回である。12月初旬に実施される後期中間試験後から冬季休業に入るまでの期間を利用し、全4回の計画を立てた。1~3回では通常授業の後半を、4回目は1コマ(90分)すべてをアフレコ活動に充てることにした。残念ながら感染症蔓延の為、3回目にあたる日がオンライン授業となったため、全3回の取り組みとなった。以下に活動計画を示す。

表1 アフレコ活動計画

| 日時                       | 活動内容(40分間)  |
|--------------------------|---|
| 第1回<br>(12/12)<br>(40分間) | ・アフレコ活動の説明<br>・テキスト音読練習(全体)<br>・班分け(各班2~3人)<br>・班での音読練習<br>・活動振り返り(アンケート) |
| 第2回<br>(12/14)<br>(40分間) | ・班分け<br>・動画に合わせて班で音読練習<br>・活動振り返り(アンケート)                                  |
| 第3回<br>(12/21)<br>(90分間) | ・動画に合わせて班で音読練習<br>・発表<br>・活動振り返り(アンケート)                                   |

### 5.2 音読活動の流れ

前述の通り、テキストには3話の対話があるので、第1回、第2回は各テキストの練習時間を決めて全対話を練習した。学生が11人なので、2名の班を4班、3

名の班を 1 班とした。また、各班がその時担当するテキストに集中できるようにするため、全員が同じ対話を同時に練習することがないように順番を決めた。

表 2 班練習のスケジュール(12/12 の練習時)

| 班   | 1 回目<br>(8 分間) | 2 回目<br>(5 分間) | 3 回目<br>(5 分間) |
|-----|----------------|----------------|----------------|
| 1 班 | 対話 1           | 対話 2           | 対話 3           |
| 2 班 | 対話 1           | 対話 2           | 対話 3           |
| 3 班 | 対話 2           | 対話 3           | 対話 1           |
| 4 班 | 対話 2           | 対話 3           | 対話 1           |
| 5 班 | 対話 3           | 対話 1           | 対話 2           |

表 2 は第 1 回練習(12/12)の際の練習スケジュールである。この時は、1 回目練習の時間が 8 分間で、2 回、3 回がそれぞれ 5 分間だった。当初はそれぞれ 10 分間を予定していたが、班分けや説明に時間がかかり、音読練習の時間を削ることになってしまった。

第 2 回練習ではスムーズに練習に入ったが、一生懸命練習に取り組むため学生の消耗度が高く、休憩時間を必要としたので、結果的には各対話 5 分間の練習時間となった。授業内の練習時間で足りないことは想定内であり、学生にとっては自律的音読練習の必要性を認識する機会になったと考えている。

なお、当初予定していた第 3 回目の授業がオンライン授業となり、音読練習にあてられなかったため、本番で発表するのは対話 1, 2 のみとした。また、アフレコ活動であるので、当初は動画に合わせて対話を読む予定であったが、動画自体に動きが少なく、発話のきっかけがつかみにくいため、ロシア語字幕を映し出した状態でアフレコをすることに変更した。



図 1 アフレコ活動の様子(練習時)

発表時は学生に班名をロシア語で考えさせ、そのアルファベット順を発表順番とした。そして図 2 のように動画をモニターに映し出し、発表者はその前に座ってアフレコをした。次に発表を控えている班が動画の再生とアフレコの様子の録画を担当した。



図 2 アフレコ活動の様子(発表時)

### 5.3 アンケートについて

表 1 に示した通り、本活動では毎回学生にアンケートを実施した。アンケートの目的は、第 1 に学生の気持ちや考え方の変化を観察すること、第 2 は毎回の活動に対して学生自身が課題を設定し、課題を達成するための方法を考えて実践し、実践を振り返る活動を通じて、自分自身の成長や課題に気づくことである。次項にてアンケートの分析結果について述べたい。

## 6. アンケートの分析

アンケートには様々な回答が見られるが、本稿ではアフレコ活動の目的に関連した回答を中心に取り上げることにする。なお引用している回答は原文のままである。

### 6.1 第 1 回アンケート

第 1 回アンケートの回答者は 11 名である。Q1 では、「初見の文章を読むのが難しい」や「自分の音読に抑揚がなかった」など、新しい課題に挑戦したことによって得られた気づきが述べられていた。

Q2 ではイントネーションという回答が多く、学生に本活動の目的が正しく伝わっていることが分かる。Q4 の当日の活動に対する自己採点の平均点は 59 点だっ

た。初回であり、思うように音読ができなかったと感じている学生が多い。そのため Q6 では 7 人が「もっと練習してくる」と回答していて、自律的な音読練習への意識の高まりが感じられる。

表 3 第 1 回アンケート(12/12 採取)の質問項目

|    |   |
|----|---|
| Q1 | 今日、音読練習をしてみた感想を教えてください。   |
| Q2 | 今回のアテレコ <sup>③</sup> 活動であなたが獲得したいもの(能力・技能・モチベーションなど)は何か、教えてください。              |
| Q3 | 授業での練習方法について聞きます。今日は音読練習をしましたが、思いつく改良点があればそれを、あるいはやった方がいいと思う練習方法があれば提案してください。 |
| Q4 | 今日の音読の出来栄を 10 点～100 点で自己評価してください。   |
| Q5 | 今日の活動で、ペアあるいはトリオになった人達とスムーズに練習できたかを、10 点～100 点で自己評価してください。                    |
| Q6 | 次回に向けての気持(抱負、改良点など)を教えてください。  |

## 6.2 第2回アンケート

表 4 第 2 回アンケート(12/14 採取)の質問項目

|    |  |
|----|--|
| Q1 | 今日の活動に対し、自分で設定した課題を教えてください。                        |
| Q2 | 前回よりも良くなったと感じた点を教えてください。                           |
| Q3 | 今日、頑張ったと感じる点を教えてください。                              |
| Q4 | 今日、今一つだったと感じた点があれば、教えてください。                        |
| Q5 | 今日の音読の出来栄を 10 点～100 点で自己評価してください。                  |
| Q6 | 今日のペアあるいはトリオの人とスムーズに練習できたかを 10 点～100 点で自己評価してください。 |
| Q7 | その他、伝えたいこと(もっとこうの方がいいとか)があれば教えてください。               |

第 2 回は回答者が 8 名であった。Q1 では、5 人がスムーズな音読を課題として設定しているが、イントネーションと回答したのは 2 名のみであった。実際に音読に取り組んでみて、スムーズに読めた上でのイントネーションと感じていると考えられる。Q2 では 6 人が「スムーズに読めた」と回答していて、自ら設定した課

題の達成を感じている学生が多いことは収穫と言える。

Q3 では「単語一つ一つではなく全体を凝視すること」という回答があり、漫然と練習するのではなく、問題意識を持った練習をしている点に成長を感じる。Q4 では「自分が思っていたイントネーションと違うところがいくつかあったので、もっと音源を聞いて練習する必要がある」と自分の練習方法を見直す回答があった。自己流で良しとするのではなく、完成度を高めようとする向上心が表れていると言える。Q5 の、当日の音読に対する自己採点の平均点は 64 点であった。わずかではあるが、第 1 回よりも得点が伸びており、学生が練習の手ごたえを感じていることがわかる。

## 6.3 第3回アンケート

表 5 第 3 回アンケート(12/21 採取)の質問項目

|     |  |
|-----|--|
| Q1  | 今日の活動に対し、自分で設定した課題を教えてください。  |
| Q2  | 質問自分で設定した課題を達成できましたか? ※以下 5 項目から 1 つ選択「達成できた」「だいたい達成できた」「どちらとも言えない」「あまり達成できなかった」「達成できなかった」 |
| Q3  | 今日(本番)の出来栄を 10～100 点で自己採点してみてください。   |
| Q4  | 今日の自分自身の出来栄で、良かったと感じた点があれば教えてください。   |
| Q5  | 今日の自分自身の出来栄で、もう一つだったと感じた点があれば教えてください。  |
| Q6  | 昨年度の暗唱と比べて、今回のアテレコはどうでしたか? 暗唱とは違う難しさや、楽しさがあったのではないかと思います。比較しての感想を教えてください。                  |
| Q7  | アテレコ活動に取り組んだことが、自分自身にメリット(成長・上達・発見)があったと感じる場合は、それを教えてください。                                 |
| Q8  | アテレコ活動に取り組んだことで、自分自身にデメリット(マイナスの効果)があったと感じる場合は、それを教えてください。                                 |
| Q9  | ペアあるいはトリオでの活動についての感想を教えてください。  |
| Q10 | 今後のアテレコ活動について教えてください。 ※以下 4 項目から 1 つ選択<br>「またやってみたい」「やってみてもいい」「どちらかと言えばやりたくない」「やりたくない」     |

第 3 回は回答者が 10 人であった。Q1 では 6 人が

イントネーションを、3人がアクセントを課題と設定している。これは前回の課題であった「スムーズに読む」ことができるようになり、イントネーションやアクセントに注意を向けられるようになったことを示しており、確実に音読の力がついてきている様子がわかる。

Q2の課題の達成度については、9割の学生が達成できたと感じている。Q3の、本番の自己採点でも多くの学生が高評価をつけた。テキストの一部分で、音読が動画の動きとずれてしまったことで低評価をつけた学生がいたものの、平均点は78点であった。Q5では5人がイントネーションと回答しており、音読においてイントネーションを意識させるという目的を達成したものと考えている。

Q6では昨年度取り組んだ暗唱との比較を尋ねている。暗記の必要がないので、発音や抑揚、アクセントに気をつけることができたという回答が5人だったのに対し、動画に合わせることの難しさがあったという回答が2人あった。この点も新たな挑戦の結果得られた気づきである。

また、今回の学生の中には、昨年度のスキット活動に参加していない者が含まれている。この学生は、今回の動画教材を初めて視聴し、非常に新鮮な体験として受けとめたようで、「ロシア語のネイティブのスピードや抑揚は難しかったものの、あくまで物語なので一種のロシア文化に触れてるような気持ち(普段イッシューラス<sup>4)</sup>とかを授業で聴いてる感覚に近い気持ち)で参加できました」というコメントを残している。この動画教材を用いたことで、ネイティブスピーカーと会話練習をする機会がない学生に対して、音読練習に留まらない効果を得ることができたのは収穫であった。

Q7ではアフレコ活動に取り組んだことによる自分自身のメリットを尋ねている。「ゆっくり読むのは、意外と難しいと気づいた」や「様々な単語を知れた」などの回答があった一方で、多くは「イントネーションに気をつけるという意識が芽生えた」や「イントネーションを学べた」などのイントネーションに関連した回答だった。イントネーションに意識を向けるという目的に到達している点は喜ばしいと感じている。

Q8ではアフレコ活動におけるデメリットを尋ねている

が、Q3で自己評価が低かった学生は、この問いに対して「音読に対する自信がなくなった」と回答している。発表という場での失敗が学生に大きな影響を与えていることがわかる。

Q9では、「ペアの音読を聞くことで、自分の読み方が違っていったことに気づくことがあったので、誰かと一緒に練習するのは大切だなと思いました」や「お互いに、難しいところのコツを教えあったり、「難しいねー」ってお互いを慰めたり、心の安寧を保つためにペア大事です」に代表されるように、全員が肯定的な回答をしている。活動中も仲間で協力し合って課題を達成しようとする場面が随所に見られた。班活動が学生の人間形成に有益であることが、改めて確認できたと言える。

Q10では、今後のアフレコ活動に対する気持ちを尋ねている。「またやってみたい」あるいは「やってみてもいい」という肯定的な回答が9割を占めた<sup>5)</sup>。概ね好評であったと言える結果であった。

## 7. 反省点と今後の課題

本活動では収穫が多い一方で反省点もある。第1点目は失敗への対応である。発表の場での失敗が動機づけを著しく低下させてしまうことは容易に想像がつくことであるにも関わらず、どのように失敗と向き合わせるのかという観点での思慮が足りなかった。

第2点目はアンケートの内容と採取方法である。アンケートの目的は5.3で述べた通り、学生の観察と学生に課題設定と問題解決を実践させることであった。本活動ではアンケートを活動後に実施したため、学生は思い出しながら回答することになった。活動の振り返りという機能は果たしているが、課題設定に関してはややぼやけている感は否めない。アンケートの目的に照らせば、事前アンケートと事後アンケートを分けて実施すべきであった。また、アンケートの設問に統一性が低く、学生の変化を調査するという点では不十分であった。

第3点目は音読練習の継続性である。発表が終われば音読練習も終わってしまうことが予想され、一過

性の取り組みとなってしまう。カリキュラムや授業計画を見直し、特別な活動として期間限定で実施するのではなく、日常的に自律的な音読練習に取り組みさせるための方策を検討する必要がある。

## 8. まとめ

本活動では、第 1 に学生を自律的な音読練習に導き、音読練習に対する動機づけを高めること、第 2 に音読練習を通じて、対話テンポやイントネーションに対する意識を持たせること、第 3 に学生間で協力して課題に取り組む態度を養うことを目的として、アフレコ活動に取り組んだ。アンケート分析の結果、目的は概ね達成することができたと言える。

学生達は、最初はスムーズに読むことができなかったが、各自で課題を設定して努力し、仲間と助け合って少しずつ課題を達成していった。そしてその結果、学生の多くが満足する成果を得られたことは非常に有益であり、音読練習への動機づけを高めることができたと考える。今後は今回の反省点を検討して改良を続けながら、学生の自律的学習を支援していきたい。

## 9. 注

(1)出典: [https://irlc.msu.ru/irlc\\_projects/speak-russian/time\\_new/](https://irlc.msu.ru/irlc_projects/speak-russian/time_new/)

(最終確認日 2024 年 1 月 31 日)

上記はモスクワ大学ロシア言語文化研究所 (Institute of Russian Language and Culture Lomonosov Moscow State University) の国際教育センター (Center For International Education) により 2007 年に制作された「Время говорить по-русски」のサイトである。

<https://timetospeakrussian.com/ru/>

(最終確認日 2024 年 1 月 31 日)

現在では上記 URL に統合されているが、アクセスは可能である。今回の音読活動では、以下の You Tube の動画を利用した。

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLw\\_ZtP\\_iJay1zyIF-Hm4dKSGM2iNwJhLl0](https://www.youtube.com/playlist?list=PLw_ZtP_iJay1zyIF-Hm4dKSGM2iNwJhLl0)

(最終確認日 2024 年 1 月 31 日)

(2)このスキット活動の詳細については別の機会を設けて記述することとする。

(3)アンケートで使用している「アテレコ」は一般的には「アフレコ」(アフターレコーディングの略)と呼ばれるものである。本稿では「アフレコ」を用いている。しかし、報告者が配布資料やアンケートの中で「アテレコ」

を用いている箇所についてはそのままとした。

(4) Ещё раз! (もう一度!)

(5) Q8 で「音読に対する自信がなくなった」ことがデメリットであると回答した学生は、今後のアフレコ活動に対する気持ちを尋ねている Q10 に対して「またやってみよう」と回答している。